

令和 8 年度 奄美地区地域自立支援協議会 第 1 回定例会 議事録

開催日時：令和 8 年 9 月 17 日(木) 13:30～15:30

開催場所：瀬戸内町きゅら島交流館

参加機関：障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、保健・医療関係、教育・雇用関係、行政（39 名）

議 題：第 1 号議案：各専門部会からの活動報告

第 2 号議案：グループワーク(次期計画策定に向けた提言協議)

テーマ：「みんなの声で『あまみのみらい』をデザインしよう！！

～第 8 期市町村障害福祉計画 / 第 4 期障害児福祉計画について～

0. 事業所見学：いすわん



1. 開会のあいさつ：瀬戸内町保健福祉課 信島浩司 課長



2. 各専門部会からの報告(第 1 号議案)

各専門部会(ピア部会、地域生活部会、子ども部会、相談支援部会、精神部会)より、令和 8 年度の活動実績・計画および成果と課題について報告。



3. グループワークおよび全体共有(第2号議案)

令和9年度からの「第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」策定に向け、各市町村への提言を取りまとめるため、8つのテーマに分かれて深掘り協議(原因分析、課題の壁、具体的な改善提案)および全体共有を実施。



【各グループの協議内容】

■ 第1グループ：障害者等への理解と交流について

- ・ テーマ：有償ボランティア等の仕組みの維持・拡大、地域での助け合い
- ・ 課題・原因：障害理解や地域との繋がりの薄さ、公的サービスのみでの限界、事業所の人手不足。
- ・ 解決の壁：地域におけるキーパーソン不足、偏見や不安の存在。
- ・ 具体的提言：ハンディキャップのある方に対する偏見・理解不足の解消に向けた普及啓発の促進。
 - 事業所の祭りや学校の吹奏楽部演奏会など、地域を巻き込んだイベントを一緒に楽しむ場を増やす。
 - 身近な小さな取り組みから少しずつ地域へ波及させる。

■ 第2グループ：相談・情報提供について

- ・ テーマ：相談窓口の周知(どこに相談すればよいか、一覧表の作成など)
- ・ 課題・原因：制度の狭間にいる人の増加、相談機関や制度が細分化しすぎてどこへ相談すべきか分からない状態。
- ・ 解決の壁：行政・民間連携の枠組みはあるものの、当事者や必要な人にまで情報が届きにくい。
- ・ 具体的提言：「とりあえずここに連絡すればつながる・わかる」相談体制の整備・周知。
 - 学校、相談支援事業所、民生委員、口コミなどを通じた普及・周知の強化。
 - 行政、教育、民間等が集まり情報共有・協議を行う場づくり。

■ 第3グループ：保健・医療について

- ・ テーマ：医療的ケアが必要な方の受け入れ体制(保育園・幼稚園・小学校等)
- ・ 課題・原因：医療的ケア児や支援内容に関する認知不足、看護師等の人手・スキル不足、受け入れ側の「なんとなく怖い」という不安。
- ・ 解決の壁：在宅医の不足、家族への負担偏重、雇用の課題。
- ・ 具体的提言：受け入れ施設側の不安を丁寧に解きほぐす活動と多職種連携の構築。
 - 小児科医、大島支庁、教育委員会、行政等による顔の見える関係性と連携体制の強化。
 - 医療的ケアに関する学びや研修機会の設置。

■ 第4グループ：雇用・就労について

- ・ テーマ：障害者雇用への企業側の理解促進、障害があるというだけでハードルが上がる企業姿勢の改革
- ・ 課題・原因：企業側の「本人のことが分からない」「雇用経験がない」という不安、雇用・指導にかかるノウハウ不足。
- ・ 解決の壁：採用・受入のハードルの高さ、定着支援や制度の理解不足。
- ・ 具体的提言：障害者雇用支援月間の奄美バージョンの開催。
 - 人事担当者だけでなく現場で一緒に働くスタッフも含めた講演会・シンポジウムの実施。
 - 市町村(雇用・福祉部門)、ハローワーク、ナカボツ等と連携した成功事例の発信。

■ 第 5 グループ：生活環境の整備について

- ・ テーマ：サービスの地域格差の解消
- ・ 課題・原因：離島・小規模地域特有の物理的距離、事業所・学校・保育所等との連携バランスの難しさ、福祉職の認知・魅力不足。
- ・ 解決の壁：人材・財源の不足、地域の仕事の少なさ、コミュニティの希薄化。
- ・ 具体的提言：サービス利用の整理と地域での助け合い・人材育成。
 - 必要な人に必要なサービスを提供する体制づくりと、地域へ協力依頼できる仕組みづくり。
 - 福祉職員の人間の魅力や人柄の発信・アピール。
 - 周辺事業所との連携によるサテライト展開や資源の薄い地域への巡回支援。

■ 第 6 グループ：教育・療育について

- ・ テーマ：個別支援の難しさ、支援者のケア・人手不足
- ・ 課題・原因：複雑な課題を抱える家族への支援の難しさ、地域による利用可能資源の偏り・不足、人手不足。
- ・ 解決の壁：支援者のバーンアウト(燃え尽き)や離職、職場環境での相談相手の不足。
- ・ 具体的提言：支援者を支える仕組み・プッシュ型メンタルケアの構築。
 - 支援者が一人で抱え込まず相談・共有できる環境の確保や、行政等による巡回型相談・ケアの実施。
 - 当事者・家族だけでなく「支援者を支える」視点を市町村計画に盛り込む。

■ 第 7 グループ：社会参加について

- ・ テーマ：障害理解と交流、幼少期からの学び・ボランティア体験
- ・ 課題・原因：障害者自身および周囲の「学び・交流・体験の機会」の不足、幼少期からの離別、メディア等による偏見や他人事感。
- ・ 解決の壁：正しく理解・行動する機会の少なさ、不安・偏見。
- ・ 具体的提言：青少年の健全育成活動や地域行事への障害理解・ボランティア体験の組み込み。
 - 青少年団体や学校活動等において、地域貢献活動や障害者との交流・ボランティアを日常的に経験できる仕組みづくり。
 - 地域全体でお互いに貢献し合える関係性の構築。

■ 第 8 グループ：災害への対応について

- ・ テーマ：福祉避難所の情報整備と周知・共有、要配慮者情報の連携
- ・ 課題・原因：福祉避難所等の情報周知不足、地域住民の「災害慣れ」による逃げ遅れリスク、情報共有の仕組み不足。
- ・ 解決の壁：個人情報保護の壁による情報開示の難しさ、支援側への情報伝達不足。
- ・ 具体的提言：災害時における被難情報の公開および関係機関の協力体制の構築。
 - 年 1 回(台風シーズン前など)の関係機関(市町村、社協、民生委員、相談支援員、ぴあリンク等)による情報共有・連携の場の設置。
 - 事前の本人同意(意思確認)を得たうえで、必要な配慮・情報の開示と共有を行う体制づくり。

【1 グループ】



【2グループ】



【3グループ】



【4グループ】



【5グループ】



【6グループ】



【7グループ】



【8グループ】



4. 情報共有：「奄美地区『障害福祉サービス等の運用』に関する共通認識

障害福祉サービスは制度上全国統一のものだが、自治体ごとの資源や環境の違いにより運用の不均衡が生じやすいため、奄美地区 5 市町村において統一した理解のもとで適正にサービス運用を行うための共通認識について共有がなされた。(別紙資料配布)

5. まとめ：奄美地区地域自立支援協議会 会長
奄美市福祉政策課 當田加奈子課長

